



## 中友会結成五十周年を祝う 新たな一歩へ向かって

中友会会長 宇津木 順一

中友会が結成されて五十周年を迎えることができました。五十年の重みを噛みしめながら、本会の充実発展のために尽くされた歴代の役員、幹事の皆さんに敬意と感謝を申し上げ、中友会結成五十周年を会員の皆さま共々に、お祝いし喜びたいと存じます。

中友会結成当時を振り返りますと、結成について、元会長は、『中学校長として一つ釜の飯を食い、同甘共苦、新制中学校を育てた人たちのつながりを持って、過ぎし日を共に偲び、将来への希望を期待しよう』との同志的集まりを作ることになった」と記しています。

終戦後、新しい教育制度の下、そのシンボルとして発足した新制中学校は、母体となる旧制の学校が無かったため、校舎をはじめ施設・設備も、教材教具も整わず、まさにゼロからの出発でした。その困難と闘い大変な苦労を重ねながら、新しく誕生した中学校を育ててきた先達としての自負と、苦楽を分かち合ってきた仲間との強い絆が込められた言葉です。この中友会結成の精神と心は中友会の伝統として中友会会員に共有され、

中友会  
[発行所]  
中友会  
港区西新橋1-22-13  
全日本中学校長会館202号室  
東京都中学校長会事務局内  
TEL 03-3504-8705  
FAX 03-3504-8706

会則第2条  
● 親 睦  
● 互 助  
● 生涯学習

<http://chuyu-kai.org/>

今日の中友会の確固たる結束につながっています。

事業活動で、結成時に第一に取り上げられたのは、中学校教育に尽くした物故会員の慰霊祭でした。第一回慰霊祭が会の発足した昭和四十二年に護国寺で挙行され、その後慰霊祭がほぼ三年ごとに護国寺で行われて、本会の最重要事業として現在に引き継がれています。来年六月には第十七回合祀慰霊祭を執り行います。

また、会の結成に当たって、会員名簿の作成に大変苦勞したことですが、会員の動静を知り合う資料として、最初は毎年、その後三年ごとに発行し、これも現在に引き継がれています。

会務の運営についても、「入会後三年以内の各期から幹事を出し、幹事長を中心にその掌にあり、中友会の運営は旧新相和した美しい姿が展開されているのである。伝統を背景に常に若き活力を注入し、会を老化させない、本会の特色ある運営である」として今日まで受け継がれてきました。

このように、この五十年、中友会結成の構想を受け継ぎ確固たる中友会の組織、伝統を築いて参

りました。現在、一、九〇〇人を超える会員を擁する強固な組織に発展しています。

一方、五十年を経て、今日、中友会を取り巻く状況は大きく変わり、会の運営にも影響が出てきています。

一つは学校制度の変化です。小学校、中学校、高等学校と進む六・三・三制、単線型の学校制度の下、中学校は唯一の前期中等教育機関として、その役割を担ってきました。しかし、今日、小中一貫教育の「義務教育学校」や中高一貫教育の「中等教育学校」などが制度化され学校制度が大きく変わってきています。中学校が担ってきた前期中等教育が多様化する中で、中学校に対する意識も大きく影響されるようになったと考えられます。

第二に定年についての考え方です。現在、再任用制度など定年後の雇用制度が整備される中で、定年を過ぎても多くの方が定年前とほぼ同様の業務に当たっています。定年はあっても現実には無いと同様の働き方になり、定年で退職という実感は持てない状況があると思われます。

第三に健康寿命の変化です。「人生百年時代」と言われるなど、定年後の人生が職業生活に匹敵するほど重要になり、定年後を余生として過ごすのではなく、生き甲斐を求めて、それぞれが多様な生き方、過ごし方を追求する時代が変わってきています。

このような時代の変化を会としてしっかりと受け止め、対応を図りながら、中友会の伝統を守り、魅力ある中友会を目指して、会員の皆さまと共に新たな一歩を踏み出していききたいと思えます。